

## ◆来年度の学級用カレンダーを制作しよう

<b>1 対象学習集団の実態</b> 日常生活に必要な読み書きは十分にできる。 社会性はおおむね5歳から小学校低学年のレベルで、集団でルールを決めて一つの活動に取り組むことができ始める頃である。自閉症やアスペルガーなど、発達障害を伴った知的障害の生徒が多く、集団での学習が苦手である。
<b>2 指導目標（児童生徒同士の間関係の形成やコミュニケーションの促進に係る目標）</b> ・学級用カレンダーにふさわしい写真を、グループごとにタブレットの中から選択することができる。 ・表計算アプリ Numbers を使い、グループごとにカレンダーを作成し、発表することができる。
<b>3 取組の中心となる教科・領域等</b> 美術
<b>4 使用したアプリ、周辺機器</b> タブレット端末（iPad）各班に1台、ネットワークプリンター、表示用ディスプレイ（液晶TV） 使用アプリ（写真、Numbers）
<b>5 指導の経過及び児童生徒の変容</b> (1) 取り組みのねらい 本年度1学期の途中まで、パソコンで専用ソフトを使って個人のカレンダーを作成していた。3年計画の3年目であり、3年生はほぼ一人で、個人の出来事などをテキストとして挿入したり、枠線や自分で撮影してきた写真などを編集したりするなどしてカレンダーを作成できるようになっていた。1学期途中から、タブレット端末を利用した学習の研修授業の一つとして、「来年度の学級用カレンダーを、タブレット端末を使って、縦割り班で作成しよう」という題材で取り組むことにした。 各学年を3班に編成し直し、3年生を中心に来年度各学年の教室に配布するカレンダーを作成することにした。また、今までの個人のカレンダーと違い、教室配布用のカレンダーを作成することで、以下の目標を生徒たちに伝えた。 ① 班の中でよく話し合い、各月ごとの様子がよくわかる写真を自分たちで撮影してきたり、その月の主な学校行事の様子がよくわかる写真を選択したりしよう。 ② 選んだ写真が、各月を代表すると考えた理由をよく相談し、班員がそろって納得し、みんなの前で発表できるようにしよう。 ③ 写真撮影や文字の入力、枠の配置構成など、公平に分担して作成しよう。 この3つのことを目標に、班で協力して学級配布用のカレンダーの作成に取り組んだ。 (2) 6月7月の取り組み どの生徒もゲームやインターネットなどでタブレット端末を触ったことはあるが、Numbers というアプリは操作したことがなく、カレンダー枠の構成や文字の入力の操作方法の習得に、時間をかけた。教師が表示用のディスプレイをとおして一斉に指導することが多かった。また、タブレット端末が3人に1台ということで、実際に操作する機会が少なかった。ただ、教師の操作や班のメンバーの操作を見ながら、操作方法についての疑問を発表したり、より良い操作方法を提示したりする方法を学習することができた。 文字の入力は、ひらがなキーボードに固定していたが、ローマ字入力に慣れている生徒もいて途中で慣れている方法に変更した。パソコンと違い、直接画面上のキーボードから入力できることで、ほぼ全員が、文字を速く入力できるようになってきた。 班員で話し合っ、操作の順番を決めることや操作が完了するまで待つということができない生徒が多く、言い争いになったり、ほかのことに興味が移り、活動に参加できなくなったりしてし

もう場面が多く見られた。

の話し合いの時間も成立しなかった。教師との1対1のやり取りの中で自分の意見を発表するという経験は割とある生徒が多いが、友達と話し合い、一つのものを選択したり、意見を交わして整理したりするグループ学習（アクティブラーニング）の経験がほとんどなく、班での写真選択や枠の構成について3年生を中心とした話し合いはほとんど成立しなかった。

### (3) 9月10月の取り組み

宿泊学習や修学旅行など生徒が楽しみにしていた行事もあったが、集中して学習に取り組む時間が取れた。9月10月をイメージする写真を自分たちで撮影し、タブレット端末に保存して班で共有し、それぞれのいいところや面白いところについて、楽しく話し合うことができるようになってきた。また、自分たちが体験してきた宿泊学習や修学旅行の写真を班で閲覧し、その中から使えそうなものを選択するという活動に取り組んだ。何回か話し合いの時間を取ってきているが、自分の興味のある写真を提示することはできるが、どこがよいのか、なぜそれをカレンダーに使うとよいのかといった説明は難しく、一つの写真に意見を集約して選択することはできなかった。

文字の入力や枠の構成に慣れるに従い、その作業に集中する生徒と、活動に飽きて学習に集中できない生徒が出てきた。

### (4) 11月12月の取り組み

4回目の話し合い以降、教師の支援を受けながらではあるが、3年生を中心にして、各月のカレンダーにふさわしい写真を選択する理由を考えられるようになってきた。次年度の中学部生徒に対して、「学校での行事に参加してみたい」と思える写真にしようとか、「なるべくたくさんの人が写っている集合写真にしよう」とかといった、意見を出し合えるようになってきている。

授業の終わりに班ごとでする、自分たちの活動の発表（写真を選んだ理由や、構成を工夫した点など）は、発表者も受け手も慣れていないため、一方的な伝達になり深まっておらず、今後支援の具体的な方法を検討していく必要がある。

### (5) 3学期の取り組み

2月下旬までに個人個人でイラストを描き、1月、2月、3月のカレンダーとして作成した。時間的な余裕がなく、班で十分に話し合っただけで教室配布用のカレンダーを選択することは難しかったが、タブレット端末を使ってカレンダーを作成することには慣れ、各自で作成したイラストを写真に取り込み、Numbers を操作して各月のカレンダーを、熱心に作成することができるようになってきた。次年度も継続して、より効果的にタブレット端末を利用していきいたいと考える。

## 6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等）

タブレット端末は、ほかの ICT 機器以上に直観的な操作ができるため、抽象的になりやすい言葉による支援を、より生徒に理解させることができると思われる。また、美術では、筆記用具による描画がとても苦手で、自分の思いを形にして表出することができない生徒も多いが、写真を撮影したり、グラフィックソフトで描画したりすることで、描画活動に対して抵抗感が少なくなり、楽しみながら、友達や教師と、自分の思いを共有しながら作品を創作することができるようになってきている。